

Spirit of Wonder

Pentel[®]

コ-ポ-ル-ト-レ-ポ-ト 2009



つたえる、
ペンてる

Spirit of Wonder—— ぺんてるが、世界中のお客様に愛用され続ける、ワクワク、ドキドキするような楽しい製品を提供していく創造力あふれる会社であり続けること
 またそうした製品を生み出していく気持ちを、私たちぺんてる社員が持ち続けること——

目次

3 会社概要

トップメッセージ

5 「品質のぺんてる」を追求

ハイライト

7 ペンてるの「ザ・品質ビジョン」

マネジメント

11 企業行動指針／コーポレート・ガバナンス
 12 コンプライアンス／
 リスクマネジメント

社会

13 お客様とともに
 15 お取引先とともに
 16 地域・社会とともに
 17 社員とともに
 19 次世代のために

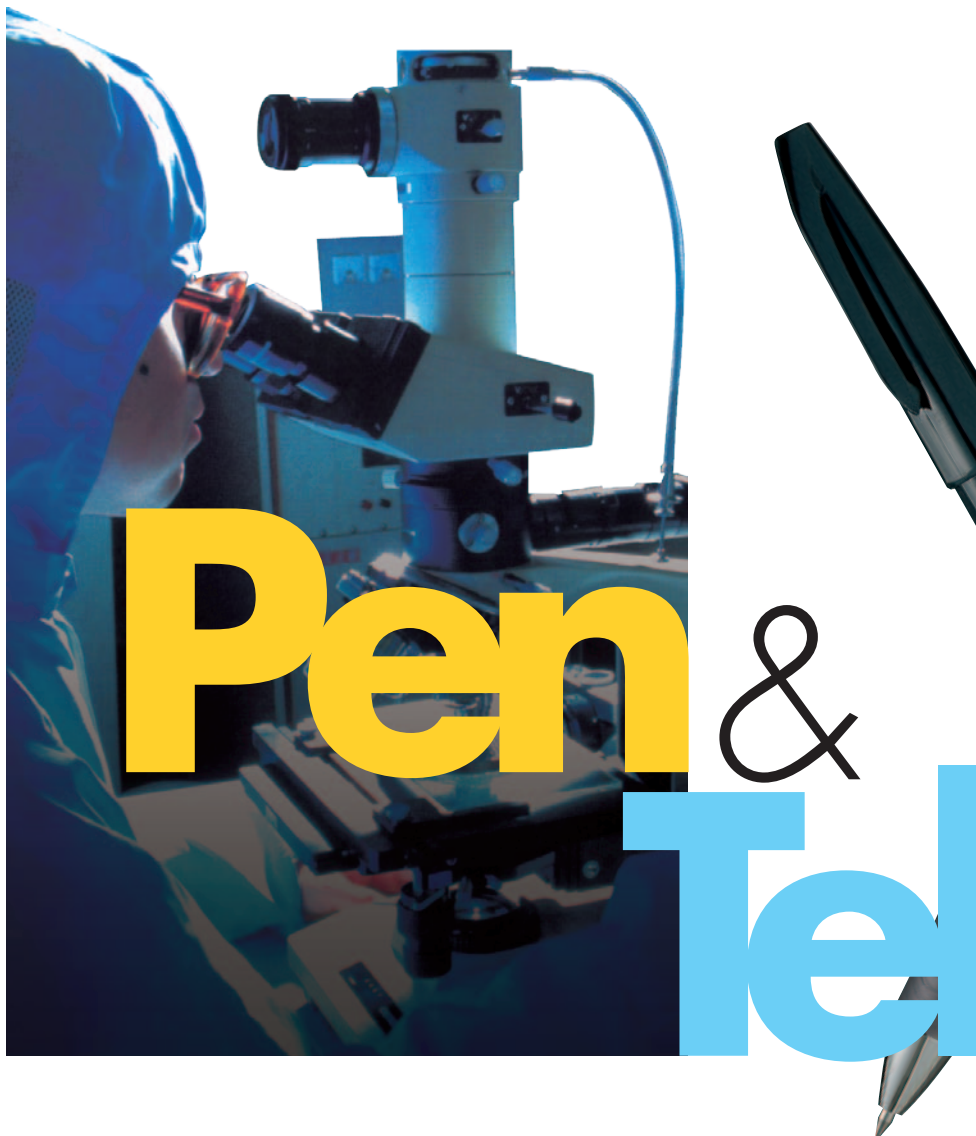
環境

21 環境保全活動への取り組み
 25 地球温暖化防止への取り組み
 27 環境に配慮した商品開発
 29 環境対応商品紹介
 30 ペンてるのあゆみ

編集方針

ぺんてるは、2005年から「環境社会報告書」を発行してきました。2009年からは、会社案内と一体化し、「コーポレートレポート」と改め、より幅広いステークホルダーの皆様の関心に応えることを目的としています。

環境関連データは原則として2008年度までの情報を収集期間としています。活動内容には一部2008年度以降についても記載しています。



社訓

- 一．社業を通じて国家社会への貢献
- 一．製品を通じて全世界よりの信用の蓄積
- 一．相手の気持になって行動する感謝と奉仕の精神
- 一．アイデアを尊ぶ研究的態度
- 一．適正利潤と冗費節約による会社、従業員の繁栄
- 一．正しい人格と愛される人柄の培養



みんなの夢をつむぐ「書き味」を追求し、
安心と信頼を約束する“ものづくり”をめざして

3つの柱

新製品開発

マーケットインの姿勢と「コトと文具を結びつける考え方」で、世の中にはない新製品を開発しています。

世界品質

「世界的に優れた品質の製品であれば、国境や人種・宗教に関係なく世界中のお客様にお使いいただける」という信念と皆が品質改善を意識し取り組むという姿勢により、世界品質の製品を作り続けています。

グローバルネットワーク

1964年アメリカに海外販売会社を設立。現在では世界21ヵ国・地域に販売拠点を有し、海外10ヵ国・地域で工場を稼働させるグローバルネットワークを構築しています。



会社概要

社名：ぺんてる株式会社 PENTEL CO.,LTD.
本社：〒103-8538 東京都中央区日本橋小網町7番2号
TEL.03-3667-3333 (代表)
創立：1946年(昭和21年)3月
資本金：450百万円
売上高：39,319百万円(2008年度・連結)
経常利益：151百万円(2008年度)
従業員数：826人 ※臨時社員を除く

(2009年3月31日現在)

ぺんてるのグローバルネットワーク

●販売拠点 ●生産拠点



<ヨーロッパ・アフリカ>

- ユーロぺんてる (フランス)
EURO PENTEL S. A. S.
- イギリスぺんてる
PENTEL (STATIONERY) LTD.
- ドイツぺんてる
PENTEL GmbH
- スイスぺんてる
PENTEL PAPETERIEWAREN A G
- イタリアぺんてる
PENTEL ITALIA S. P. A.
- ポーランドぺんてる
PENTEL POLAND Sp. z o. o.
- 南アフリカぺんてる
PENTEL SOUTH AFRICA (PTY) LTD.

<アジア・オセアニア>

- 台湾ぺんてる
PENTEL STATIONERY(TAIWAN) CO.,LTD.
- 香港ぺんてる
PENTEL(HONG KONG) LTD.
- タイぺんてる
PENTEL(THAILAND) CO., LTD.
- シンガポールぺんてる
PENTEL(SINGAPORE) PTE.LTD.
- マレーシアぺんてる
PENTEL(MALAYSIA)SDN.BHD.
- 天津ぺんてる
PENTEL STATIONERY(TIANJIN)CO., LTD.
- 上海ぺんてる
PENTEL STATIONERY(SHANGHAI)CO., LTD.
- オーストラリアぺんてる
PENTEL AUSTRALIA PTY, LTD.
- インドジャパン
INDO JAPAN PEN MFG. CO., PVT. LTD

<南・北アメリカ>

- ペンてるオブアメリカ
PENTEL OF AMERICA, LTD.
- カナダぺんてる
PENTEL STATIONERY OF CANADA, LTD.
- ラテンぺんてる (パナマ)
PENTEL DE LATINOAMERICA, S.A.
- メキシコぺんてる
PENTEL DE MEXICO, S.A. DE C.V.
- ブラジルぺんてる
PENTEL DO BRASIL IMP., EXP., IND. E COM.
LTDA.

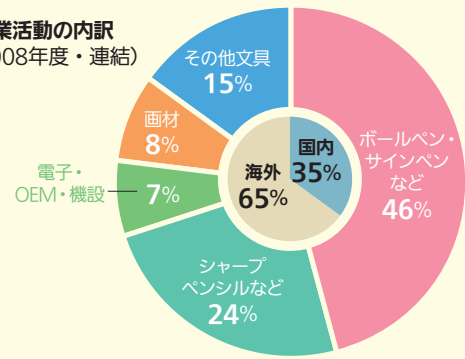
 <http://www.pentel.co.jp/corporate/sales-network.html>

事業概要

ぺんてるは、描画材の技術や画期的で独創的な発想から多くの筆記具を生み出してきた文具の総合メーカーです。

さらにぺんてるの事業分野は、電子機器などの製造販売、産業用ロボット・産業用自動組立機・精密ハンドプレスなどの製造販売、化粧品などのOEM関連製品の製造販売にまで広がっています。

● 事業活動の内訳
(2008年度・連結)



文具事務用品

現在ぺんてるでは、ボールペン、シャープペンシル・替芯、マーカーといった筆記具をはじめ、画材、修正具、のりなどさまざまな文具事務用品を製造しています。

くれよん、えのぐを製造販売する会社からスタートしたぺんてるですが、世界で初めてのノック式シャープ「ぺんてる鉛筆」、第3の筆記具として爆発的人気を呼んだ「ぺんてる サインペン」、ペンタッチ式の修正液「ぺんてる 修正液」など、いずれも独創的なアイデアと高い品質で、世界中のお客様に親しまれています。



【ボールペン】



【シャープペンシル・替芯】



【マーカー】



【画材・その他文具】

電子機器事業部

手書き内容がそのままデジタルデータになるデジタルペンをはじめ、液晶タッチパネルや液晶ペンタブレットなど、時代の先を行く精密機器の開発から販売までを行っています。



OEM 事業部

お客様のブランドならびに仕様に合わせ、化粧品容器・医療機器などの部品・製品の製造販売を行っています。お客様のブランドづくりをぺんてるの技術でサポートします。



機設部

長年にわたり蓄積してきた、自社製造ラインの生産機械・金型の外販を行っています。家電、自動車、医療器具、日用品等あらゆる分野でぺんてるの機械・金型が活躍しています。



社会からの信頼を得るために

—— 社会から信頼される企業をめざし、
どのような取り組みを展開されていますか。

ぺんてるは1946年の創業以来、社訓に「社業を通じて国家社会への貢献」を掲げ、「文具を通じて文化を育成し、社会から尊敬される企業を目指す」ことを経営理念とし、活動の基本としてきました。そのような考えのもと、1960年には黒鉛と樹脂を原料にした替芯やノック式シャープペンシルを発売。さらに、アメリカで大ヒットとなった「サインペン」、世界初の樹脂チップ水性インキボールペン「ボールぺんてる」、動物毛を使用しない「ぺんてる筆」、世界初のペンタッチ式修正液、ゲルインキボールペンブームの先駆けとなった「ハイブリッド」、速乾性ゲルインキボールペン「エナージェル」、ノック式油性マーカー「ハンディ」、さらには、パレットに絵の具の色が残らない「パレットきれいえのぐ」等、数多くの画期的で独創的製品を開発。そうした製品を通じて「書く」「描く」文化の育成に貢献してきました。

また、2008年は特に国内において、食品などを中心に商品の安全性・信頼性が社会問題となった年でもありました。私ども文具業界においても同様に、より高いレベルでの安全性や信頼性が求められてきているように思われます。一方、地球温暖化問題が改めて世界各地で語られ始めた年ではないかと感じています。私たちがビジネスをしている地球環境は有限であるという認識が全人類によって共有されました。地球環境への取り組みはもはや一刻の猶予もなく、企業が果たす役割も非常に大きいと認識しています。

そうした背景もあり、ぺんてるでは、「安心」と「信頼」の企業であることをこれまで以上に追求し、お客様のお声十分に耳を傾け、世界に誇れる「品質のぺんてる」であり続けたいとさらに強く考えるようになりました。そのために2008年、ぺんてるでは「ザ・品質ビジョン」を制定しました。

トップメッセージ

「品質のぺんてる」を追求 ～社会から信頼される企業をめざして～



「書く」「描く」ことに 安心と信頼をお約束するために

——「ザ・品質ビジョン」とは何ですか。

「ザ・品質ビジョン」とは、①「書き味」品質の追求、②環境への配慮を謳った環境品質の推進、③お客様との信頼の醸成をめざしたサービス品質の向上、の3つの品質に対する取り組みについて、ぺんてるの想いを言葉にしたものです。

ぺんてるの「品質」とは、製品機能品質にとどまらず、環境負荷の少ない製品品質や、お客様満足度の向上をめざすサービス品質を含む、レベルの高い「ぺんてるならではの品質」であるべきだと考えています。

イノベティブな商品開発を進め、お客様に質の高いサービスと情報を提供し続けることにより「使ってみたらぺんてるだった」というイメージから「ぺんてるだから安心して使える」という信頼感を浸透させたいと思っています。

グローバルでサステナブルな 発展をめざして

——ぺんてるの未来へ向けての想いをお聞かせください。

前述した安全性や信頼感、地球環境問題のみならず、今企業に対するステークホルダーからの要請は、ガバナンス・コンプライアンス・リスクマネジメントへの対応、雇用問題、人権問題など、さまざまな社会的課題へと多様化しています。こうした課題にも誠実に対応すべく、さらにはグローバルな持続的発展をめざしています。

これからも、ぺんてるはこうした活動を通じて、ステークホルダーの皆様から尊敬される、そして社会から信頼される企業をめざして、さらなる努力を続けていきたいと考えています。

2009年9月

ぺんてる株式会社
代表取締役社長

堀江圭馬



「ザ・品質ビジョン」

お客様の思いの深いところにお応えする商品開発の追求

お客様の小さな声に真摯に、徹底的に耳を傾けると、真のニーズやご不満に出会うことができます。ぺんてるはお客様の使用場面を深く掘り下げ、「こんな欲しかった」と言っていただけの商品を生み出しています。

書き味



店頭・市場では極細ボールペンが人気。ぺんてるならではの商品を提供したい。(ぺんてる営業社員)



開発者がお客様の使用現場に向かいマーケティング「スリッチ」

「スリッチ」は、企画・開発・製造・販売まで多くの部署による全社プロジェクトで誕生しました。これまで私のような開発者は、使用現場に向かう機会が少なかったのですが、今回はターゲットの女子学生と実際に接し、筆箱を見せていただくなど、何度も足を運んでマーケティングを行いました。

ボールペンは通常、軸が細いと握りにくいのですが、女子学生の筆箱にはカラフルなペンが20~30本ぎっしり…。なるほどと納得して、「スリッチ」では細軸を採用しました。カラーもピンク系、ブルー系、オレンジ系を中心に多色で展開。さらに、極細タイプは筆圧でペン先がダメになりやすいというご不満を受けて、なめらかなのに強いペン先にこだわりました。このような開発ポイントは、従来のような社内中心の開発体制ではなかなか発見できないことです。お客様に接することがいかに大切か実感しました。

茨城工場 中央研究所
第5開発室
町田 俊一郎

児童が使っている白いパレットに絵の具の色が残り、洗ってもきれいにならない。どうにかならないか。(小学校教諭のお客様)



パレットに色が残らない絵の具を新開発

「パレットきれいえのぐ」



このご不満について、さっそくテストをするとともに社員の家族から実際に小学生が6年間使用したパレットを提供してもらいました。集まった数10枚のサンプルは程度の差はあれ、どれも色ジミが目立っており、これを解消する商品の必要性を確認しました。さらに調べたところ、お母さま方もご不満に感じていることがわかりました。開発の最大の課題は、美しい発色にあくまでもこだわりながら、色ジミにならないこと。試行錯誤の末に生まれた「パレットきれいえのぐ」は、水洗いで簡単にパレットがきれいになるとご好評いただいています。通常のアンケートなどでは上がってこない、お客様の隠れた声を品質に反映できたことが今回の成功につながったのだと思います。

茨城工場 中央研究所 第1開発室
加藤 昭光



地球環境と資源に配慮した“ものづくり”の推進

お客様が本当に必要なもの、
使いたいものをお届けする、
ぺんてるの“ものづくり”スピリット

少しでも地球環境への負担が少ないものをお客様にお届けしたい…それは“ものづくり”を行うものの使命だと、ぺんてるは考えます。気候変動や資源問題の深刻さを深く認識し、より環境負荷の少ない“ものづくり”をめざした改革を進めています。

環境

ボールペンやサインペンは使いきりのものも
ありますが、製品の環境配慮は行っているのですか？

(主婦のお客様)

将来も持続可能な新しい“ものづくり”へ リサイコロジープロジェクト

ぺんてるでは、循環型の社会づくりに貢献するため、製品への再生資源活用の拡大をめざした独自のリサイコロジープロジェクトを推進しています。国内外の主力商品に関して、再生材の使用拡大を進めています。ぺんてるがこのような取り組みを始めたのは、現代では使いきりが主流となっている筆記具の作り方を見直し、将来も持続可能な“ものづくり”による環境配慮型の製品を世界中のお客様にお届けしたいという思いからです。

また、リサイコロジープロジェクトでは、地球温暖化防止への取り組みの一環として、CO₂排出量の面から見てもより環境負荷の少ない製品をお届けすることをめざし、外部専門家の協力を得て製品のライフサイクルアセスメントを行っています。2009年度は、これらのスタディを活かし、

生産工程の環境負荷削減活動や、カーボンフットプリント、カーボンオフセットへの対応を進めています。

今後は、リサイコロジーの考え方をさらに進化させ、筆記具の長寿命化や、部品を簡単に分別ができる分別性向上設計の採用などに取り組み、より持続可能な“ものづくり”を推進していきます。

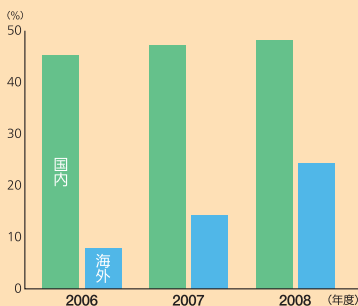


ぺんてるは再生材を使用した商品に対し、独自に「リサイコロジーマーク」を制定し、2006年から全世界のぺんてるの共通マークとして使用しています。



商品企画本部 商品部 部長
木村 昌宏

リサイコロジーマーク商品比率 (総売上に対するリサイコロジーマーク商品売上)



※詳細はP.27をご覧ください

お客様とともに リサイコロジー

- リサイコロジープロジェクトでは、お客様をはじめ、さまざまなパートナーとともに持続可能な“ものづくり”を進めています。
- たとえば、茨城工場では、大手電機メーカー F 社様の生産

工程で発生した再生可能資源を利用して、筆記具を製造し、再び F 社様に納める取り組みを始めています。納入本数は年間約30,000本、企業の資源循環にも積極的に協力しています。

きめこまかなニーズを満たすサービス品質の向上

文房具メーカーの仕事は、製品を作って出荷し、お客様に無事にお届けすれば終了…と思われるがちですが、実は違います。お客様が実際にどんな風にお使いになるのか、どうしたらペンてる製品の良さが伝わるのかを真剣に考え、サービス品質の向上に取り組んでいます。

サービス



品質保証部
古澤 あい子

店頭でくれよんを選ぶときに、外箱には色の表示がなく、何色が入っているかわからないので困りました。

(くれよんを選ぶお客様)



お客様の声に応じてパッケージ変更

ペンてるくれよん・ ポリチューブ入りエフ水彩

お客様相談室には年間約2万件の声が寄せられています。ひとつひとつの声はレポートとして関係部署に伝えられますが、その際に気をつけているのはできるだけお客様の言葉のまま伝えること。お客様の真のお気持ちを社員一人ひとりにわかってもらいたいからです。

お客様の声は、ペンてるにとって

は宝物です。それらの声からさまざまな新商品やサービスが誕生しているのです。たとえば、50年以上のロングセラーの「ペンてるくれよん」のパッケージは、お客様のご指摘によってデザインを変更しました。おかげで、現在では、多くの方が外箱の色表示を見て安心してご購入いただけていると思います。



新たな
チャレンジ



拡大

インキの鮮度にこだわるという新しい視点からのボールペン

「.eボール できたてichiban」

油性ボールペンのインキは鮮度が高いほどインキ出がスムーズで品質トラブルが少ないんです。ところが文具の製造は長期的な生産計画を立て、一度にたくさん作ることで生産効率を上げるのが大原則です。そこでペンてるは、その前提を覆し、インキ注入から最大29営業日でお届けする「.eボール できたてichiban」を開発し、一部の店舗でトライアル販売をしています。

通常の文具品の受発注と違い、食品などと同様、商品の販売動向に合わせて生

産していますから、ペンてるの生産や営業だけでなく、販売店様にも厳しい鮮度管理（綿密な販売予測に基づく1週間毎の発注と先入れ先出しの徹底）にご協力いただいています。そのおかげで鮮度のよい品質の安定した商品をお客様にお届けできるので大変ご好評いただいています。これからも、ペンてるの総合力を結集して、既成の考えを打ち破り、サービス品質の向上を図っていききたいと思います。



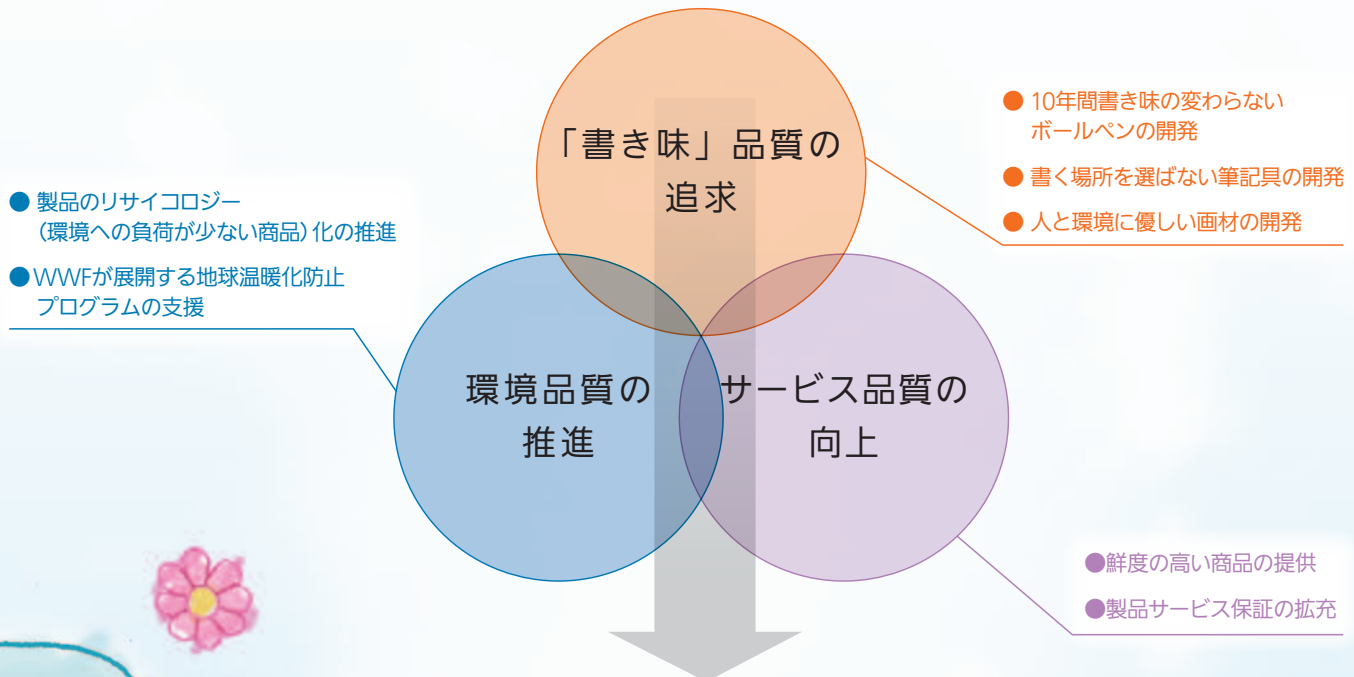
量販営業部 田中 裕

ぺんてるの“ものづくり”スピリットをあらわすのが、「ザ・品質ビジョン」です。

“書き味” “環境” “サービス”、3つのお客様満足を追求していきます。

ぺんてるの「ザ・品質ビジョン」

ぺんてるは、みんなの夢をつむぐ「書き味」を追求し、
安心と信頼を約束する“ものづくり”を目指します。

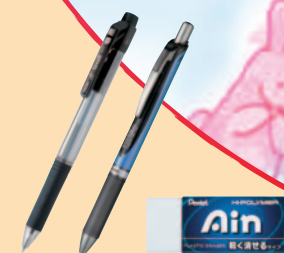


コミュニケーションシンボル

プラネット ドゥ メール

planète de mère

「planète de mère (母なる惑星)」は、
「安心」「信頼」を表すぺんてるのマーク…
ぺんてるはみなさまに感覚的に感じていただけるように、
マークに「香り」を選びました。



※「planète de mère (プラネット ドゥ メール)」
は、.eボールシリーズ、エナージェルシリーズ、ハイ
ポリマー消しゴムシリーズ、でご体感いただけます。

 <http://vision.pentel.co.jp/>

質の高い健全な 企業運営に努めます

ぺんてるが掲げる「ザ・品質ビジョン」を実現するために、ぺんてるでは企業行動指針の徹底、コンプライアンス教育の徹底、リスクマネジメントに取り組んでいます。

企業行動指針

企業の社会的責任を果たし、持続的発展を目指した企業であること、また良き企業人であるためには、社会から信頼され、必要とされる企業であり企業人でなければなりません。企業・個人が社会

活動（企業活動）を遂行する上で遵守すべき行動規範として、創業以来の「社訓」に基づく「ぺんてる企業行動指針」を2005年に定め、全社員にその徹底を図っています。

ぺんてる企業行動指針

- 広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を公正に開示します。
- 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動します。
- 品質、環境、安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して社会的に有用な製品を開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を高めていきます。
- 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行います。
- 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行うこと。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
- 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。

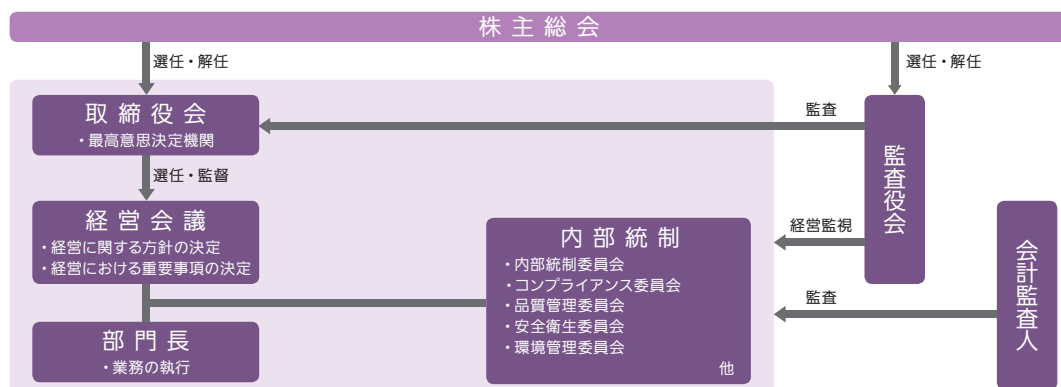
コーポレート・ガバナンス

ぺんてるは、経営の効率性を高めつつ、お客様、地域社会、お取引先などの各ステークホルダーとの良好な関係を保ち、企業としての社会的責任を果たすため、コーポレート・ガバナンス体制の整備と拡充に努めています。

取締役会は、経営の最高意思決定機関として定

時および臨時に会議を開催し、法令および定款に定める事項、その他の重要事項を審議、決定しています。また、監査体制は、監査役制度を採用しており、2009年6月末現在、社外監査役3名を含む4名で構成し、経営の監視および監査と透明性に貢献しています。

コーポレート・ガバナンス体系図



コンプライアンス

グローバルに事業を展開するぺんてるは、社会から尊敬され、愛される企業となるため、世界中の労働者の人権、労働環境、労働条件などについて、その国や地域の法令・規則の遵守はもとより、正しい行動を実践しています。

■ 社員へのコンプライアンス教育

ぺんてるは、企業倫理に基づく行動の実践のために、「コンプライアンス・マニュアル」を作成しています。このマニュアルには、社員が遵守すべき事項が具体的に例示されており、社内電子掲示板にていつでも閲覧可能な体制となっています。また、コンプライアンスの啓発活動のため、

コンプライアンス・マニュアル 遵守事項

1. 基本的人権と労働者の権利尊重
2. 適正な商取引の実施
3. 環境保全
4. 機密情報や個人情報の適切な管理
5. 適正な経理処理・税務申告
6. 利益相反行為等の禁止

教育ビデオやコンプライアンス担当者による定期的な教育を実施しています。

リスクマネジメント

ぺんてるは、不正輸出防止ならびに個人情報の保護などを重要な社会的責務と考え、リスクの包括的な管理に努めています。

■ 不正輸出の防止

ぺんてるの技術や貨物が平和目的以外に使用されないように、「輸出貿易の法令遵守に係わる社内規程」を定め、輸出部門での管理体制を整えているほか、定期的に社員教育と監査を実施し、法令遵守とリスク管理に努めています。

■ 情報管理の徹底

個人情報を含む企業情報の流出・漏洩事故に備え、ぺんてるは個人情報保護といった法令遵守に関する社員教育の実施と、情報管理部署の入室管理や端末機器のパスワード管理を徹底するなど、お客様情報や社内機密に関する厳重な管理を行っています。

個人情報保護ポリシー

1. 本人の同意のある場合、または法令で許容されている場合を除き、通知もしくは公表した利用目的、または取得の状況から明らかな利用目的にのみ個人情報を利用します。
2. 必要かつ適切な安全管理対策を講じることにより、個人データの漏洩、滅失または毀損の防止など個人データの安全管理に努めます。
3. 社員に対する教育啓蒙活動のほか、個人情報を取り扱う部門ごとに管理者を置き、個人情報の適切な安全管理に努めます。
4. あらかじめ本人の同意のある場合、または法令で許容されている場合を除き、第三者には個人情報を提供しません。
5. 保有個人情報の確認、訂正などを希望された場合は、合理的な範囲で対応します。

みなさまに愛用される 製品を作りつづけます

ぺんてるは、画期的な新製品の開発に取り組み、世界最高品質の製品をめざすとともに、世界中のお客様に永く愛用される製品づくりのため、お客様相談室などを通じて、積極的にお客様とのコミュニケーションを図っています。

品質管理体制

ぺんてるは、画期的な新製品開発と同時に、「世界的に優れた品質の製品であれば国境や人種、宗教に関係なく世界中のお客様にお使いいただける」との信念のもと、絶えず世界最高品質の製品をめざし品質保証活動を推進しています。この品質保証活動を支えているのがぺんてるの総合的品質管理（Total Quality Management）活動です。

創業以来、品質管理を経営の大きな柱として活動し、1976年にはデミング賞^{※1}を文具業界で初めて受賞しました。その後も品質マネジメント活動を推進し、ISO9001^{※2}認証を国内の工場はもとより、海外の工場でも取得しています。

■ 製品安全性

近年、RoHS指令^{※3}やREACH規制^{※4}など、製品安全性に関する規制が強化されています。ぺんてるでは、企画・開発段階で徹底した製品安全性の確保のため、JIS規格はもとより、CE基準やRoHS指令より厳しい社内基準で品質設計を行っています。特に製品に含有される重金属に関しては、中央研究所で、企画・開発段階はもちろんのこと、市場上市後もICP発光分光分析によりその確認を実施しています。最近では、絵の具特有の防腐剤の臭いの少ない「ポリチューブ入りエフ水彩」など世界に先駆けて安全性を追求しています。

■ 「ぺんてるならではの品質」の実現

現在では、安価であるが品質や製品安全性に不安がある製品が、日本はもとより世界で多く見受けられます。ぺんてるは、それらの製品とはっきり差別化できる製品やサービスを通じて、「ぺんてるならではの品質」を実現し、お客様に快適に、安心してお使いいただける製品を提供していきます。

ISO9001認証取得状況

1995年	茨城工場
	吉川工場
1998年	電子機器事業部
1999年	機設部
	アメリカ ロサンゼルス工場
	台湾 台北工場
2000年	フランス パリ工場
	ぺんてるケミカル（株）
2003年	中国 天津工場



ICP発光分光分析機器による確認



ポリチューブ入りエフ水彩
<http://pentel.imagestore.jp/eco/>

※1 デミング賞

戦後の日本に統計的品質管理を普及させ、日本製品の品質を世界最高水準に押し上げる大きな礎となった故デミング博士の業績を記念して、1951年に創設された総合的品質管理に関する世界最高ランクの賞です。



※2 ISO9001

品質管理および品質保証のためのISO（国際標準化機構）規格として1987年に制定されました。顧客満足の提供や改善活動を継続して実施することが求められており、社会的信用や競争力の向上が図られます。この品質マネジメントシステムの審査・認証は第三者機関により行われます。

※3 RoHS指令

電子・電気機器における特定有害物質（鉛、水銀など6物質）の使用制限についての欧州連合（EU）による指令です。

※4 REACH規制

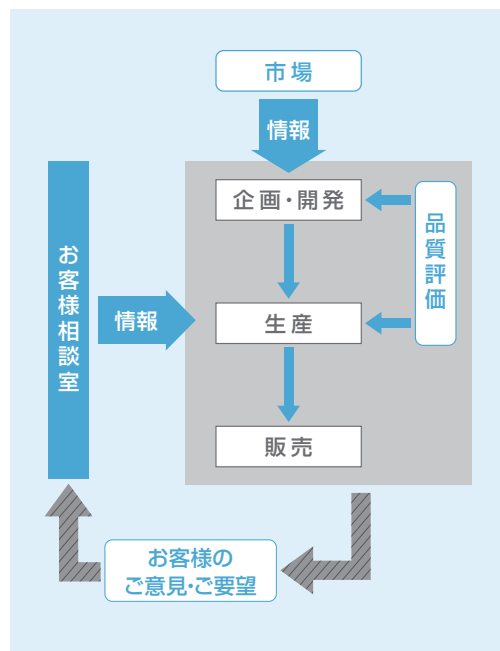
REACH（Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals）は、2007年6月1日からスタートした、欧州における化学物質の総合的な登録・評価・認可・制限の制度です。

お客様相談室

ぺんてるは、お客様相談室を設置し、お客様からのお問い合わせに対し、きめ細かな対応を実施しています。近年は、インターネットの普及に伴い、メールでのお問い合わせも増加しています。

お客様相談室には、商品の使い方や製造方法など、さまざまなお問い合わせをいただいています。その中でも、汚れの落とし方やリフィル交換方法といった、お問い合わせの頻度が高いものは、お客様にタイムリーに情報をご提供するために、ホームページの充実を進めています。

また、お客様相談室にいただいたご意見、ご要望は、マーケティング、開発などの社内関連部署に迅速にフィードバックし、品質の改善や新製品の開発に積極的に結び付けています。



<http://www.pentel.co.jp/support/>

お客様とのコミュニケーション

ぺんてるは、ホームページやメールマガジンを通し、お客様とのコミュニケーションの活性化に積極的に取り組んでいます。

また、商品の企画段階にもWEBアンケートやグループインタビューを実施し、お客様とのコミュニケーションを通じて得られたご意見を検討し、商品に反映させています。

■ 一般ユーザー様向けメールマガジン「PENTEL TIMES」

ぺんてるの新製品や楽しいお役立ち情報を毎月お届けしています。



PENTEL TIMES

https://secure.pentel.co.jp/mailmagazine/mail_user.html

Voice of "Spirit Of Wonder"

お客様相談室には製品の使用方法についてのお問い合わせも数多く寄せられています。今後は、安全性が高く誰でも簡単に使用できるユニバーサルな製品作りをめざすなど、実際に製品を使用されたお客様のご意見を新製品の品質評価に、またさらなる開発に活かしていきたいと思いを。



品質保証部 品質保証課 莊司 和彦

お取引先とともに

ビジネスパートナーとの協働体制を築きます

ぺんてるは、お取引先を大切なビジネスパートナーとしてとらえ、公正・透明で適正な取引を基本に、情報公開やコミュニケーション活動を通じ、より良い協働体制を築いていきます。

お取引先とのコミュニケーション

ぺんてるは、主にビジネスパートナーである販売店様などを通じてお客様に商品をお届けしています。

販売店様向けメールマガジン「PENTEL NEWS」(毎月発行)や各種イベント、製品講習会を通じ、ぺんてるから情報提供を行い、コミュニケーション活動を推進することで、お取引先とのより強固な信頼関係の構築に努めています。

■ 製品知識講習会の実施

ラテンぺんてる（パナマ）では、お取引先の営業関連の社員を中心に、製品知識講習会を定期的に開催しています。

当初は、ぺんてるの新製品紹介が主な目的でしたが、参加メンバーの熱心な取り組みから、今では、ボールペンやマーカー類の全般的な基本知識を学ぶ幅広い勉強会となるなど、お取引先とともに成長・発展することをめざしています。



パナマの製品知識講習会

地球環境に配慮した調達活動

ぺんてるは、持続可能な社会の構築・実現のため、地球環境に配慮した商品を開発・提供しています。そのため原材料などの調達に関して、右のような項目に考慮しています。また、これらの点に配慮されている企業との公平・公正なお取引を行うことで、地球環境への配慮を重視した調達活動に取り組んでいきます。

■ グリーン調達・グリーン購入

ぺんてるは、環境ラベル製品の購入の推進、パンフレット類の印刷インキの大豆油インキ化、消費電力の少ない事務機器の調達など、グリーン調達に取り組んでいます。工場においては、調達品

調達お取引先決定の際の考慮事項

- ・ ISOシステムを導入している企業であること
- ・ 環境配慮の取り組みをしている企業であること
- ・ 輸送距離がなるべく短い企業であること

上記項目は、現在は絶対条件ではありませんが、地球環境のためにも最大限考慮すべき項目として、お取引先決定の際に重視しています。

の国内外の化学物質規制への適合性を評価し、基準適合品の調達を推進しています。またオフィスでは、コピー用紙を再生紙へ切り替えるなど、グリーン購入活動を推進しています。

地域のみなさまに愛される 企業でありつづけます

ぺんてるは、国内外の事業拠点で、周辺の清掃活動やイベントなどを通じ、地域のみなさまとの交流を深め、企業パートナーとして地域の取り組みに参加しています。

地域医療活動への貢献

■ エイズリボンキャンペーン（南アフリカ）

南アフリカぺんてるでは、2008年よりエイズリボン仕様ボールペンの売上の一部をエイズホスピス機関およびエイズ医療団体へ寄付しています。



南アフリカぺんてるの社員

■ 乳がんキャンペーン（イギリス）

イギリスぺんてるでは、2006年より乳がん撲滅・啓蒙活動を行っている団体である「乳がんキャンペーン（BCC）」に参加し、ユーロ工場製のピンク軸ボールペンの売上の一部をBCCに寄付しています。4年目となる2009年は、特に乳がんケアのための心理療法の分野に対し、寄付を実施します。また、これらの活動が認められ、乳がん細胞の侵食を予防する医薬品を開発しているブリストル大学に社員が招待されました。



イギリスぺんてるの社員

地域に密着した活動・イベントなどの実施

■ メシュイ※（フランス）

ユーロぺんてるでは、毎年6月に社員とその家族、近隣住民およびお取引先の方を招待し、工場前庭にてメシュイを開催しています。当日はゲームや出し物などを通じ、交流を深めています。



メシュイ

■ 工場周辺のクリーン活動

ぺんてるの国内3工場（吉川、茨城、草加）では、年に数回、周辺道路や公園などの清掃を行っています。清掃には工場の全社員が参加し、地域との交流を図っています。



工場周辺のクリーン活動

■ 納涼祭

吉川工場、茨城工場では社員が企画・運営する納涼祭を毎年開催し、各地の市長や地域の方々にご協力、ご参加いただいています。2008年度の参加者は、吉川工場は約1,000人、茨城工場は約3,000人でした。



納涼祭

※ メシュイ

アラブ系伝統行事がフランスに伝わったもので、地域、家族など、大勢で子羊の丸焼きやバーベキューを楽しむ野外行事です。

Voice of "Spirit Of Wonder"

茨城工場の納涼祭は、1964年にインキ工場を設立してから間もなく始まりました。今では近隣のみならず遠方からのお客様もいらっしゃる大規模なものになりました。今後も、納涼祭が地域のみなさまとの交流や、企業としてのぺんてるに興味を持っていただけるきっかけになればと思います。



茨城工場 業務課
古屋 ゆり子

安全で働きやすい 職場環境をつくります

ぺんてるは、一人ひとりの社員の能力と意欲を引き出し、伸ばしていくよう取り組むとともに、すべての社員が心身ともに健康で安全に働ける職場の環境づくりに努めています。

人材育成

ぺんてるは、階層別教育・職能別教育・QC教育・自己啓発を柱とした社員教育の実施、QCサークル^{*1}による改善提案活動の推進により、社員一人ひとりの能力と意欲を引き出す環境づくりに取

り組んでいます。また、事業所間、国内外を越えたジョブローテーションを実施し、グローバルに活躍する人材の育成に努めています。

2008年度に実施された研修

- ・新入社員研修およびフォローアップ研修
- ・中堅社員研修
- ・初級管理者研修<通信教育>
- ・初級管理者研修<集合教育>
- ・管理者研修「戦略型マネジメント研修」
- ・管理者研修「ビジネス文書研修」
- ・海外出向前研修（初回者および現地責任者）
- ・SD スクール



初級管理者研修

■ QCサークル

ぺんてるは、工場部門を中心にQC教育の実践の場として、1965年よりQCサークルによる改善提案活動を推進しています。

3工場のサークル数は草加：5サークル、吉川：16サークル、茨城：36サークルの計57サークルとなっています。

QCサークル活動は社内だけでなく社外でも発表



QCサークル活動

会があり、地区大会から全日本大会まで選抜されたサークルが出場し、多くの賞を受賞しています。

QCサークル社外選抜大会受賞歴（2001年度以降）

年度	参加サークル	所属工場	地区選抜大会	関東支部選抜	全日本選抜大会
2001	ウーパールーパー	茨城	茨城	金賞	銀賞
2002	アミノ	茨城	茨城	金賞	金賞
2003	アシスタント	茨城	茨城	金賞	銀賞
2004	インフィニティー	吉川	埼玉	銀賞	
2005	なすびー	茨城	茨城	金賞	金賞
2006	よろずや	吉川	埼玉	銀賞	招待発表
2007	あさりパート1	茨城	茨城	銀賞	
2008	ザ・モンスターズ	吉川	埼玉	銀賞	



QCサークル関東支部大会での発表



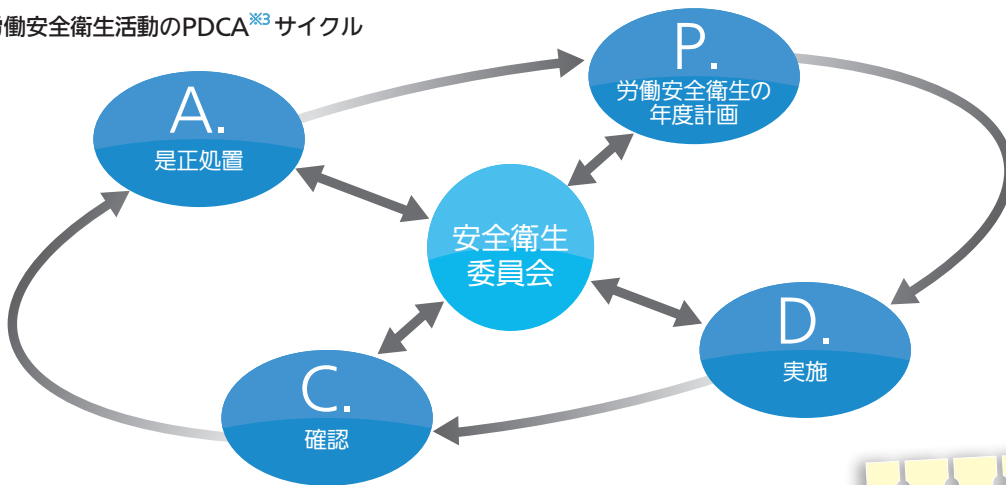
労働安全衛生

ぺんてるは、社員の安全で働きやすい環境を確保するため、労働安全衛生に取り組んでいます。特に機械などを扱う製造現場での取り組みを重点的に実施しています。安全衛生委員会^{※2}を設置し、委員会による工場巡回を毎月実施、その際、機械の異常、設備の状況を確認し、問題のあるときには該当部署に是正勧告、対策の確認をしています。今後もこの活動を推進し引き続き発生事故ゼロをめざします。

労働災害発生状況（2008年度）

	総労働時間 (h)	発生事故（件）	
		休業災害	不休災害
茨城工場	596,336	0	0
草加工場	279,232	0	0
吉川工場	187,852	0	0

労働安全衛生活動のPDCA^{※3}サイクル



働きやすい職場づくり

ぺんてるは、社員の多様性、人格、個性を尊重するために、女性社員の管理職登用の推進、産前産後休暇・育児休暇・育児短時間勤務などの制度の拡充、障がい者雇用、定年退職者の再雇用などに取り組んでいます。

■ 社員の健康管理

ぺんてるは、社員が健康を維持し安心して働けるよう、毎年健康診断を全社で実施しています。

また、身体のみならず、社員の心の健康も重要と考え、本社、支社、各工場にてメンタルヘルス研修を実施しています。

※1 QCサークル

お客様に満足していただける製品やサービスを提供することを目的とし、第一線で働く社内の社員同士で小グループ（サークル）をつくり、製品・サービス・業務内容の質の改善・向上を図るグループの活動です。1962年に日本で始まった活動で、現在では海外でも認められ、世界70数カ国の地域に普及しています。

※2 安全衛生委員会

安全衛生委員会は各職場より選出された安全衛生委員と管理者で構成されています。毎月1回の工場巡回では毎月決められた重点テーマのもと各職場の安全状況を確認し、重点テーマ以外であっても安全に係わる不安要素があれば、是正措置の要求、確認を行います。また、巡回後の会合では労働災害事故の未然防止のための提案・議論を行っています。

※3 PDCA

Plan（計画）、Do（実施）、Check（確認）、Action（処置）のプロセスを順に実施するマネジメントサイクルです。Checkの結果からPlanの内容を継続・修正・破棄のいずれかにし（Action）、次のPlanに結び付けるというらせん状のプロセスを繰り返すことで、継続的な業務改善活動および品質の維持・向上を推進します。

Voice of "Spirit Of Wonder"

現在、新人研修をはじめとした各種社内研修を担当しています。新人研修では社員が講師となることで、指導側の社員の成長にもつながっています。社員の成長はすなわち会社の成長です。今後も、一人ひとりが成長できる、成長を実感できる研修や人事制度を整えていきたいと思っています。



総務人事部 人事教育課 係長 青木 登希子

文具を通じて、次世代へつづく文化を育成します

ぺんてるは、「書育」の普及・推進、世界的な児童画展覧会や、地域に密着した写生大会などへの協力・協賛を通じて、子どもたちの情操・感性の育成に力を入れています。

書育への取り組み

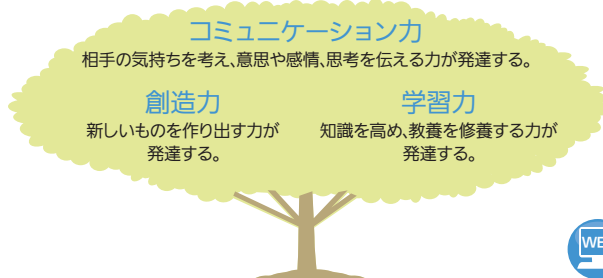
ぺんてるは、日本筆記具工業会の推進する「書育」に取り組んでいます。

書育とは、携帯電話やPCの普及により筆記具を使って書くという行為が少なくなることで起きているといわれる、日本語力の低下やコミュニケーション能力の不足、脳の働きの低下などを防ぎ、

「書く」ことの大切さをより多くの方々に知っていただき、そのメリットを感じていただけるよう、広く社会に貢献する活動です。

ぺんてるでは、書育で育まれる力を楽しんで体験していただくために、ホームページに関連コンテンツを掲載するなど、積極的に普及に努めています。

■「書く」ことによって育まれる3つの力



■ 関連コンテンツ

【コミュニケーション力】

筆ペンの選び方から、持ち方や筆文字のバランスの取り方などといった文字を書く際のポイントだけでなく、筆ペンでのイラストの描き方など、幅広くご紹介しています。今すぐ役に立つ楽しいノウハウで、「書く」コミュニケーションを応援します。

「筆ペンじょうず 虎の巻」



<http://www.pentel.co.jp/fude/>

■ 画材講習会

ぺんてるは、全国の教育機関、各地区図画工作美術研究会、幼稚園、保育所、研究団体を通じ、学校の先生や教職を志望する学生などを対象に、画材の知識と実技の指導を行う講習会を開催しています。講習内容は固形画材（くれよん・パスなど）の基礎

<http://www.jwima.org/shoiku/>

【創造力】

ぺんてるのマスコットキャラクターである「べべ」と「ルル」が、くれよんやえのぐなど、ぺんてるの商品を紹介します。くれよんの製造工程といった、子どもたちから多く寄せられる疑問にもわかりやすくお答えするなど、子どもたちが楽しく学べるコンテンツです。

「こどもひろば」



<http://www.pentel.co.jp/kids/>

的な使い方から、えのぐを使った簡単に面白い描画技法など幅広く、造形表現、図工・美術の指導力向上をバックアップしています。2008年度は千葉県内の小学校などで講習会を開催し、今後も教育現場などの要請に応じて随時開催していく予定です。

本社・工場見学の実施

ぺんてるは、小中学校の修学旅行などを対象に、本社見学、工場見学を実施しています。商品の開発現場などさまざまな部署を回り、ぺんてるがどのように環境保護や地域に貢献しているかを体感していただいています。2008年度は、合計11校115名の見学を受け入れました。



写生会

ぺんてるは毎年、全国各地で開催される写生会に協賛・協力をしています。2008年度は大小織り交ぜ50ヵ所以上の写生会に協賛・協力しました。今後もぺんてるは、地域と密着し、文房具・画材を通じて子どもたちの情操、感性の育成に貢献していきます。

■ 山下公園ファミリー写生大会

2009年4月29日、ぺんてるが協賛する第26回

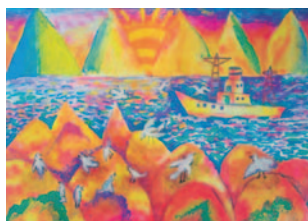
山下公園ファミリー写生大会（横浜市PTA連絡協議会主催）が開催されました。横浜開港150周年にあたる今年、ご家族での参加を含め推定25,000名の参加者があり、大会参加者による展覧会にも、約3,500点の応募がありました。



世界児童画展

ぺんてるは、1970年より財団法人 美育文化協会主催の「世界児童画展」に協賛しています。同展は、大阪万国博覧会会場にて第1回が開催され、39回を数える現在では世界42ヵ国から20万点（国内14万点、海外6万点）を超える作品の応募がある、世界最大規模の児童画コンクールです。

ぺんてるは、同展への協賛により、「描く」ことを通じ子どもたちの感性と理性の調和のとれた成長と文化の育成を願っています。



第39回世界児童画展 外務大臣賞受賞作品
「魚釣りの時期」プリティロバ・ニナ 10歳（ロシア）

Voice of "Spirit Of Wonder"

商品企画や営業を経て、現在は画材事業全般を担当し、画材新製品の企画や販促、社内外の画材研修の運営、管理などを行っています。教育現場に向けた研修会などでは、参加していただいた先生方の笑顔の先に子どもたちの笑顔があると考え、喜んでいただける企画になるよう尽力しています。



流通企画部
スクールマーケット課
課長 大塚 義孝

地球社会の企業市民として 環境保全に取り組みます

ぺんてるは、環境綱領に基づく環境マネジメント体制を構築し、国内外の各事業所で環境保全活動をグローバルに展開・推進しています。

環境綱領

ぺんてるは、地球社会のよき企業市民として、企業の社会的責任を果たすため、1996年に環境綱領を制定し、1997年に環境管理・推進の組織を立ち上げました。主として環境への負荷が大きい工場

サイトの活動を推進し、国内3工場、海外でもアメリカ工場、台湾工場においてISO14001[※]を取得しました。また、2003年度より全社環境管理委員会を組織し、全社での取り組みを推進しています。

環境綱領

基本理念

ぺんてるは地球社会のよき企業市民として、企業の社会的責任の重要性を認識し、地球環境保護と環境汚染防止を企業経営の重要な理念として、全社員の環境意識を高め、会社運営の全ての面で人と環境に調和した企業活動を推進します。

行動指針

1. 企業活動全般にわたり、設計開発から廃棄にいたる全ての段階において環境保全を考慮した製品とサービスを開発し、提供します。
2. 環境に関連する国内外の関連法及び協定、約束を遵守し、継続的な環境の保全と向上を図ります。
3. 海外事業展開に際しては、相手国の環境保全の確保に努めます。
4. 新規事業の計画に当たっては、継続的なアセスメントを実施し、環境保全に努めます。
5. 社員に対しては、環境保全に対する情報の提供と教育を行うとともに、顧客、行政、地域社会に対しても環境保全のために必要な情報を提供します。
6. この方針を全社員、全組織に周知徹底するとともに、環境保全に関する知識と技術の向上に努め、全社一丸となった環境管理活動を推進します。

世界のぺんてるの仲間とともに

ぺんてるは、2005年に世界中のぺんてる社員に向けて「PENTEL BRAND VISION 2005」を配布しました。この中で、地球環境や環境汚染予防活動などとともに取り組むことを表明しています。

今後、この理念の実現のために、ISO14001認証取得などの活動を日本のみならずグローバルに展開していきます。また、現在はISO14001の認証を取得していない、天津、ユーロ（フランス）、メキシコなどの海外工場においても、部分消灯や工程

不良の改善による廃棄物の低減などに積極的に取り組んでいます。



ぺんてるブランドビジョン2005

環境マネジメント体制

ぺんてるの環境マネジメント体制は、右の項目を主体にPDCAサイクルを基本とした全社的な取り組みを実施しています。

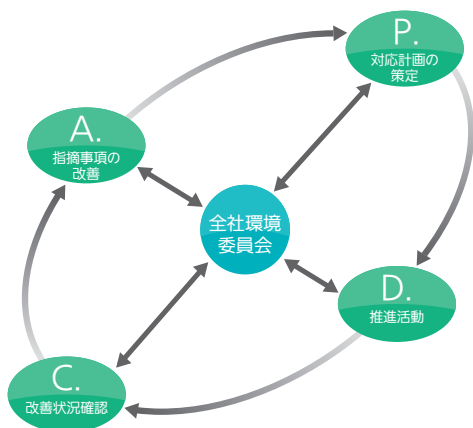
■ ISO14001 マネジメントシステム

ぺんてるは、ISO14001マネジメントシステムの確実な実行のために、ISO14001を取得した各工場の環境管理責任者が中心となり、技術、運用、システムの面から、マネジメントシステムの円滑な実施とさらなる改善を進めています。

■ QCサークルによるボトムアップ

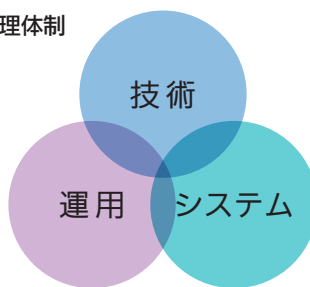
ぺんてるは、トップダウンによる取り組みだけでなく、QCサークル活動において環境提案やポスターコンクール、環境標語の制作やリサイクルバザーを実施するなど、社員一人ひとりが参加するボトムアップの活動を計画、実行しています。

環境マネジメントのPDCAサイクル



1. 「ISO14001マネジメントシステム」の確実な実行
2. 「TQM(総合的品質管理)」活動の一環として実施
3. 「QCサークル活動」(工場部門)での全員参加

ISO14001管理体制



ISO14001認証取得状況

1998年	吉川工場
1999年	茨城工場
2000年	草加工場
2001年	アメリカ ロサンゼルス工場
2002年	台湾 台北工場

※ ISO14001

環境マネジメントシステム(EMS: Environmental Management System)に関する規格として1996年に制定されました。環境マネジメントシステムとは、製品・サービス等について、環境に与える負荷を継続的に低減・防止していくための仕組みを、企業の中に構築するためのマネジメントシステムです。

Voice of "Spirit Of Wonder"



吉川工場では、主にシャープペンシルの替芯を製造しています。替芯は高温での焼入れ作業が必要なため、消費電力を大幅に削減することは非常に困難ですが、社員が知恵を出しあい、一つ一つの改善を行っていききたいと思います。

吉川工場 企画室 特注 OEM 担当
片山 信吉

草加工場には、中央研究所や電子機器事業部・OEM事業部・機設部があり、電子機器や機械の開発・製造も行っています。省エネ・省資源の推進だけでなく、環境教育も行い、地域社会と共生できる地球にやさしい工場をめざしています。

草加工場 中央研究所 企画管理室
室長 宇佐美 秀幸



環境保全活動への取り組み

ゼロエミッション

ぺんてるは、ゼロエミッション※1をめざし、廃棄物の削減とリサイクルを推進し、下記のことを中心に取り組んでいます。

ゼロエミッションへの取り組み

- ・廃棄物の分別収集
- ・プラスチック廃棄物の高炉減量化リサイクル
- ・生ゴミのコンポスト処理
- ・産業廃棄物のセメント原料化リサイクル
- ・蛍光灯のリサイクル

国内工場の活動

草加工場では、2008年度も100%達成しており、2005年度より連続してゼロエミッションを達成しています。

吉川工場では、2008年度は1%未達成でしたが、ワーキンググループでリサイクル化の検討を行っています。

茨城工場では、2008年度はわずか0.3%未達成でしたが、現在唯一埋立て処理となっている物質を使用している商品の素材変更などを検討し、ゼロエミッション達成に向けて取り組みを推進しています。



生ゴミ処理装置



廃棄物の分別収集

省資源・省エネルギーの推進

ぺんてるは、省資源・省エネルギーを推進しています。

オフィスでは、ワールビズへの参加、裏紙利用などによる紙使用量の削減、消灯運動・室内温度適正管理に取り組んでいます。

国内3工場では、消費電力の少ない製造設備の調達・切り替え、製造工程の見直し・効率化による消費電力の削減、製造設備の冷却水の循環による水の消費量の削減に取り組んでいます。2008年度は、草加工場では使用電力の再検討、成形冷却水のリサイクル化に取り組みました。吉川工場では蒸気配管の見直し・修繕、替芯乾燥枠の改善などに取り組みました。茨城工場では省エネルギーと効率化のためにコンプレッサーの統合を進め、エアコン室外機には省電力装置「エネカット」を取り付け消費電力の削減に努めました。

また、国内3工場はそれぞれ事業所の目標に合わせた環境スローガンを制定し、省資源、省エネルギーをはじめとした環境問題に対し、全社員で意識的に取り組んでいます。さらに、日常的に行えるエコロジックな活動リストが掲載された「グリーン活動カード」を国内3工場とも全社員が携帯しており、一人ひとりが日常的な業務の中でも、省資源・省エネルギー活動を実践しています。



省電力装置「エネカット」を取り付けた室外機

環境保全活動

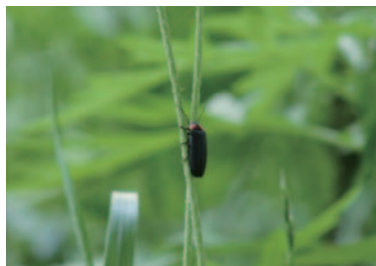
ぺんてるは、国内の3工場、海外2工場においてISO14001を取得し、各工場において独自の環境保全活動に取り組んでいます。特に、工場の諸活動から発生する環境影響負荷を低減するため、水質汚濁の予防、使用物質の代替などを行っています。また、工場および周辺の環境改善のため、工場内の緑地率を上げる緑化計画を推進しています。

■ 工場排水によるホタル育成

茨城工場では、1964年の稼働開始以来、工場排水が流入する霞ヶ浦の水環境保全のための工場排水浄化に取り組み、浄化した工場排水による魚類の飼育を続けてきました。2008年、水環境保全の進化をめざし、排水浄化設備を更新させ、工場内に設置したビオトープ※2にてホタルの育成に取り組みました。地元の自然保護団体などのご協力のもと、2009年6月、ホタルは無事に羽化。茨城工場の排水が清流に棲むホタルが生息できるまでに浄化されていることを実証しました。



ビオトープ



茨城工場内で羽化したホタル

※1 ゼロエミッション

環境を汚染することのない生産工程を用いたり、異業種産業（企業）の連携によって廃棄物を再利用したりすることで、社会全体での廃棄物排出がゼロになるシステムを構築する、またはその構築をめざすことです。

※2 ビオトープ

ドイツ語の造語で、語源はギリシア語のbio（いのち）とtopos（場所）です。生物群集の生息空間を示し、ここでは自然との共存を目的とした「復元された野生生物の生息空間」を意味します。

※3 環境会計

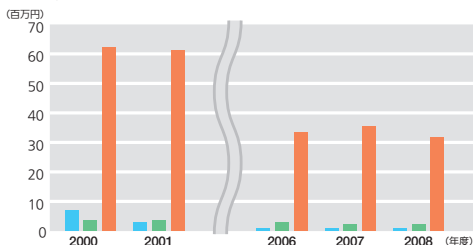
環境会計とは、企業等が、持続可能な発展を目指して、社会との良好な関係を保ちつつ、環境保全への取組を効率的かつ効果的に推進していくことを目的として、事業活動における環境保全のためのコストとその活動により得られた効果を認識し、可能な限り定量的（貨幣単位又は物量単位）に測定し伝達する仕組みです。ここでは電力、水道等の主要エネルギーの削減について表わしています。

環境パフォーマンス管理

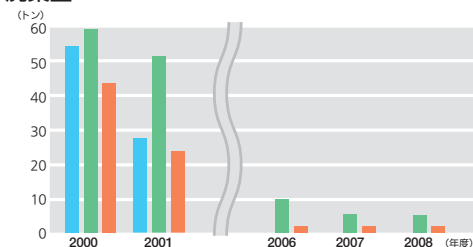
ぺんてるは、電力使用料、水道使用料、リサイクル量、廃棄量、環境会計※3についてのパフォーマンスを管理し、これらの項目全体の改善に取り組んでいます。



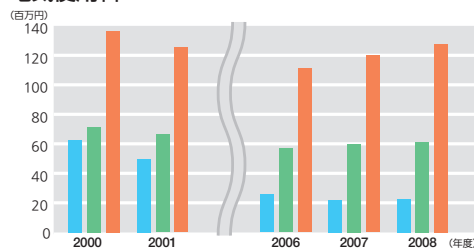
水道使用料



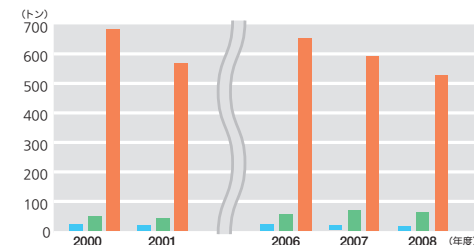
廃棄量



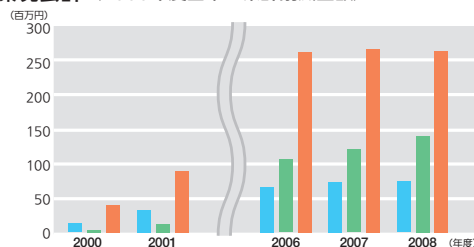
電気使用料



リサイクル量



環境会計 (2000年度基準 累計削減金額)



技術力や環境教育を通じ、地球温暖化防止へ貢献します

ぺんてるは、原材料調達から製造、廃棄までのライフサイクルアセスメントにおける温室効果ガス排出量の削減、カーボンフットプリント、カーボンオフセットへの取り組みを進めるとともに、環境教育を通じ、子どもたちの地球温暖化への関心を高めることで、地球温暖化防止へ貢献しています。

地球温暖化防止

ぺんてるは、地球環境に配慮する取り組みの一環として、温室効果ガスの削減に努力し、またカー

ボンオフセットに投資するなど地球温暖化防止活動を推進しています。

■ CO₂排出量削減

ぺんてるは、部分消灯や昼休み消灯を徹底し、CO₂ 排出量抑制に取り組んでいます。また、国内3工場では上記だけでなく、2010年度でのCO₂ 排

出削減目標（2006年度対比、原単位）を定め、各工場においてCO₂ 排出削減のための取り組みを行うなど、全社一体となった取り組みを進めています。

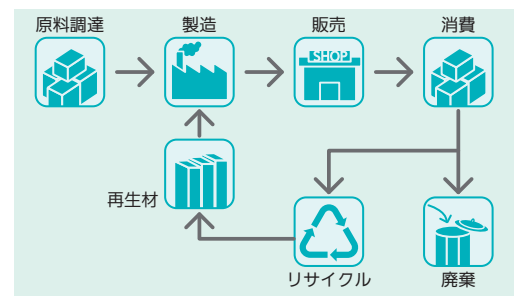
■ カーボンフットプリント

ぺんてるは、2009年に経済産業省によって策定された、商品・サービスのライフサイクル全般（原材料調達から廃棄・リサイクルまで）で排出される温室効果ガスをCO₂ に換算し、商品に簡易な方法でわかりやすく表示する「カーボンフットプリント制度」の対応に向け、取り組みを進めています。

ぺんてるは、現在、再生材を活用した商品を数多く製造しています（詳細はP27）。その中の調査で、バージン材と再生材の違いは調達段階にあるといわれています。新たに石油製品を作りだすバージン材に比べ、再生材はその素材の調達段階におけるCO₂ 排出量が大幅に減少します。

これらの調査結果を踏まえ、ぺんてるは再生材

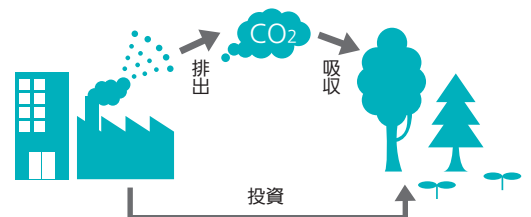
のさらなる活用を推進するとともに、カーボンフットプリント制度への対応に向け、排出量算出の準備を進め、現在は、お取引先である大手販売店などから要望の高かった主要商品について、実際のCO₂ 排出量の算定に取り組んでいます。



ライフサイクルアセスメント

■ カーボンオフセット

ぺんてるは、発生したCO₂ の量を何らかの方法で相殺し、CO₂ 排出量を実質ゼロに近づけるというカーボンオフセットについて、ぺんてるらしいCO₂ 削減プランの検討を重ねています。また、現在は工場敷地内で、CO₂ 吸収率が高いとされる樹木の植樹を進めています。



■ クールビズへの参加

ぺんてるは、2007年夏よりクールビズに参加しています。オフィスでは空調設定を28度に、ネク

タイ着用をなくすなど、体感温度を下げる取り組みを行い、温暖化防止へ貢献しています。

環境教育プログラム

ぺんてるは、「社業を通じて国家社会への貢献」の一環として、環境・社会活動と次世代育成活動が連携した小学生を対象とした環境教育プログラムに取り組んでいます。世界自然保護基金(WWF)※1の協力のもと、地球温暖化をテーマにした小学4～6年生の「総合的な学習の時間」向けの教材『ホッキョクグマが泣いている…』を作成し、2006年4月より無料配布をしています※2。また、2008年には英語版を作成、配布し、全世界に向けてぺんてるのメッセージを発信しました。

■『ホッキョクグマが泣いている…』

この教材は、子どもたちもよく知っているホッキョクグマに焦点をあてることで、温暖化の深刻さをより身近にとらえさせ、それを防ぐ方法を考え、実践していくという構成を特徴としています。教材には「児童用」と「教師用」があり、地球環境の保護と温暖化防止を“子どもたちの身近な出来事”としてとらえられるような学習が、5時間にわたって展開できるようになっています。

現在、教材は全国の小学校・学年・学級を単位

■WWFジャパンから感謝状

ぺんてるは、2008年9月にプラネット・ドゥ・メール・デビューキャンペーン、2009年1月より「ばんだとしろくま」キャンペーンを実施し、対象商品の売上の一部をWWFが展開する地球温暖化防止プログラムを支援するため寄付しました。

主旨にご賛同いただいたお客様の篤い志として、合計4,755,110円を寄付し、2009年7月、WWFジャパン(財団法人世界自然保護基金ジャパン)より、感謝状を贈られました。



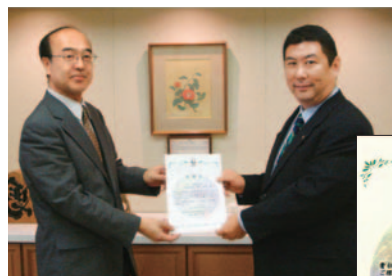
総合学習教材『ホッキョクグマが泣いている…』



環境教育プログラムを使用した授業

に無料配布しており、電話またはFAXで申し込みを受け付けています。

『ホッキョクグマが泣いている…』事務局
TEL/FAX : 03-3505-8323



WWFジャパン 樋口 隆昌 事務局長(左)と
ぺんてる株式会社社長 堀江 圭馬(右)



※1 世界自然保護基金(WWF)

絶滅の危機にある野生生物の保護や地球全体の自然環境保全に取り組んでいる団体。ぺんてるはWWFマークをつけたぺんてるくれよんなどの製品を通じて応援・協賛し、対象商品の売上の一部を自然保護活動に還元しています。

※2 『ホッキョクグマが泣いている…』配布数

	国内			海外
	児童用	教師用	配布所	
2006	31,333	1,957	279	—
2007	4,990	299	73	—
2008	13,747	5,428	79	約3,000
総数	58,464	8,320	497	約3,000

<http://www.pentel.co.jp/sogo-gakushu/>

全商品の環境負荷低減、 リサイコロジ化をめざします

ぺんてるは、1991年より人と地球にやさしい環境配慮商品の開発に着手し、現在では環境への負荷の少ない商品が国内売上の約50%を占めています。また、リサイクル素材を使った商品を開発・生産販売し、同時にリデュース・リユースの視点に立った活動を推進しています。

商品開発の方針

ぺんてるは、CE基準に合致した安全性と機能性を求めるだけでなく、環境に配慮した商品開発を行っています。

プラスチックや紙の再生材を使用することはもちろん、インキの詰め替えやカートリッジ・リフィルを交換することで、ゴミの減量化、環境への負荷を低減できる長寿命製品を増やします。また、廃棄物の削減と化学物質管理（PRTR制度^{*1}対応、RoHS指令対応）のため、重金属や環境影響化学物質を削減し、包装材には環境ホルモン成分（フタレート系）を含まない材料に変更を進めています。

商品開発の概念図



リサイコロジマーク

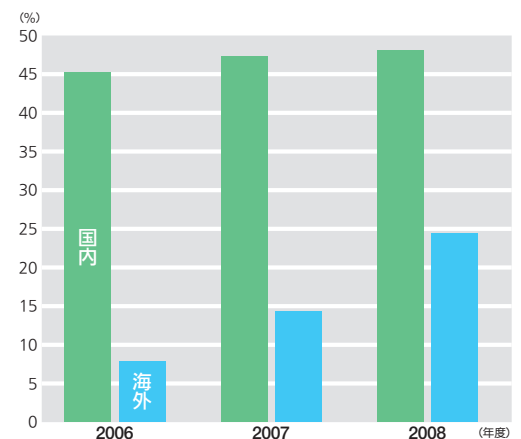
ぺんてるは、環境問題に積極的に取り組むという企業方針のもと、より多くの廃棄素材を有効に再利用するため、部品ごとにさまざまな再生材を活用しています。製品の特質上、また安全性を確保するために、エコマークの認定基準（再生材を70%以上使用）をどうしても満たせない商品についても、可能な限り再生材の利用を推進しています。

ぺんてるは、そのような再生材を活用した商品に対し、独自に「リサイコロジマーク」を制定し、2006年から全世界のぺんてるの共通マークとして使用しています。また、キャップ安全性ISO規格、欧州玩具安全基準に準拠し、人と地球にやさしいぺんてるのブランドとして展開しています。

総売上に対するリサイコロジ商品売上比率は年々増加しており、今後は海外向け商品のリサイコロジ化にも積極的に取り組んでいきます。



リサイコロジマーク商品比率
(総売上に対するリサイコロジマーク商品売上)



<http://pentel.imagestore.jp/eco/>

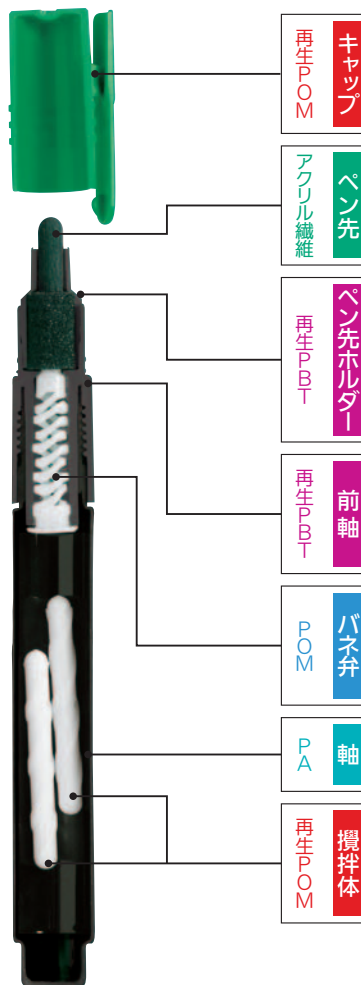
リデュース・リユースへの取り組み

■ リデュース

自動車部品などのマーキングに使われているペイントマーカ―は、従来、本体にアルミ、攪拌体に鋼鉄ボール、そのほかに樹脂の複合素材を使用していました。そのため、廃棄物の分別を行う企業では、素材ごとに分解する作業を効率化する必要がありました。そこでぺんてるは、金属部品を使わず、プラスチックゴミとしてそのまま廃棄できる「樹脂部品だけのペイントマーカ―」を開発しました。開発にあたっては、「認定基準をクリアする」、「RoHS指令の基準をクリアしたインキを使用する」、「インキに含まれる有機溶剤による劣化を防ぐ」という3つの課題に取り組み、「有機溶剤に劣化しない材料は金属だけ」という常識を打ち破りました。

● 材質

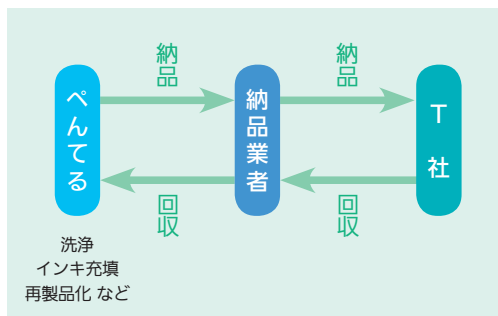
前軸・ペン先ホルダー：再生PBT
 キャップ、攪拌体：再生POM
 ペン先：アクリル繊維
 パネ弁：POM
 (写真はMMP20中軸)



■ リユース

分別不要の商品を開発するだけでなく、使い終わってインキのなくなったペン本体を回収し、再度インキを補充して再利用する取り組みを大手自動車メーカーT社と共同で実施し、今後もさらなる技術力アップを図っています。

再製品化の流れ



3R

● リサイクル

製品化されたものを再資源化し、新たな製品などの原料として利用することです。

● リユース

一度使用された製品をそのまま、もしくは製品のある部分をそのまま利用することです。

● リデュース

環境負荷や廃棄物の発生を抑制するために、無駄・非効率的・必要以上の消費・生産を抑制あるいは行わないことです。製品の寿命を極力延ばすことや、部分的に交換するだけで継続使用できるように作ることも、リデュースです。

※1 PRTR制度

PRTR (Pollutant Release and Transfer Register: 化学物質排出移動量届出制度) は、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握、集計し、公表する仕組みです。日本では1999年、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(化管法)により制度化されました。

※2 GPN (グリーン購入ネットワーク)

グリーン購入の取り組みを促進するために1996年2月に設立された企業・行政・消費者の緩やかなネットワークで、環境に配慮した商品のデータベース (エコ商品ねっ) を公開しています。

※3 グリーン購入法

国などの公的機関、事業者、消費者のそれぞれが、環境物品などを調達 (購入) することにより、「環境にやさしい」いわゆる「環境保全型社会」を作ることを目的とした法律です。

ノック: 再生POM
ギア・電気製品・自動車部品など

キャップ: 再生PC
携帯電話など

尾栓: 再生PE
医療用容器など

先金・軸・グリップ: 再生PC
部品輸送用ケースなど

再生PP
食品容器端材など

再生材 使用率 90%

ゲルインキボールペン ハイブリッド

水性ゲルインキボールペン。筆跡は耐水、耐光性(顔料インキ使用)。軽く、なめらかな書き味で鮮やかな筆跡。グリップ感を高めたステッチグリップつき。インキ残量が一目でわかるクリスタルボディ。

軸: 再生AS
冷蔵庫トレー・クリスパーなど

再生材 使用率 87%

サインペン

世界中で愛用されている水性ペンのベストセラー。なめらかなタッチのアクリル繊維ペン先。

尾栓: 再生PE
医療用容器など

軸・キャップ: 再生PP
食品容器端材など

再生材 使用率 78%

ボールペン .eボール

油性ボールペン。従来のノック式ボールペンリフィルに比べ、インキ量がアップしたロング芯を採用。ペン先の近くを持つ方でも指にフィットするロングラバーグリップ。

環境対応商品 リサイクロロジー商品

ケース: 再生AS
冷蔵庫トレー・クリスパーなど

替芯 ハイポリマー アイン

再生材 使用率 82%

折れにくく、濃くなめらか。ぺんてる独自の製法によるなめらか成分配合。芯にさわらず、ダイレクト補充。持ちやすいカーブフォルムのケースデザイン。

再生PP
食品容器端材など

再生材 使用率 100%

ポリチューブ入り エフ水彩

キャップは片手でも開け閉めできるワンタッチキャップ。量の加減がしやすい細口+ソフトチューブ。キャップ、チューブに再生材を使用。えのぐは色ののび、発色がよく混色も自由。チューブは落としてもつぶれにくくなっています。

チューブ: 再生PE
袋・点眼用ボトルなど

詳しくは
エコロジー商品カタログを
ご覧下さい。



<http://pentel.imagestore.jp/eco/>



※再生材使用率はエコマーク基準に基づいて算出
※データは2009年9月現在

ぺんてるのあゆみ

ペン&テルでぺんてる

ぺんてるという社名は、画材専門メーカーとして創業したことからつけられたものです。ペインティング（えのぐ・くれよん・パスなどで絵を描くこと）と、パステル（固形描画材）のテルを合わせてぺんてるです。また、筆記具の総称のペン（Pen）と、「伝える・表現する」のテル（Tell）、さらにはテレコミュニケーション（Telecommunication＝遠距離通信）のテルの意味も含む、まさにぺんてるの製品や事業内容を象徴する社名といえるのです。



2008年 (平成20年)

「ザ・品質ビジョン」発表

2006年 (平成18年)

リサイクログッズ商品群を全世界に向けて発信
環境教育プログラム『ホッキョクグマが泣いている…』を
発刊・無料配布

2005年 (平成17年)

コーポレートステートメント
「Spirit of Wonder」を発信



2004年 (平成16年)

新世代ステーションリー
「エアペンストレージノート」発売

2000年 (平成12年)

国内初エコマーク付えのぐチューブ
「エフ水彩ポリチューブ入りえのぐ」発売

1995年 (平成7年)

オゾン層破壊物質の全廃

1992年 (平成4年)

世界自然保護基金 (WWF) に協賛開始

1991年 (平成3年)

人と地球にやさしい商品の開発開始
ぺんてるリサイクルマークの作成・表示

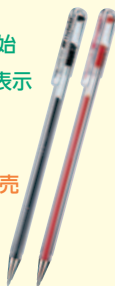
1989年 (平成元年)

ゲルインキボールペン「ハイブリッド」発売

1983年 (昭和58年)

「ぺんてる修正液」発売

世界初ペンタッチ式修正液



1980年 (昭和55年)

産業用ロボット「PUHA」を
開発・発売し、FA部門に参入

1963年 (昭和38年)

「ぺんてる サインペン」発売

1972年 (昭和47年)

水性ボールペン
「ボールぺんてる」発売

1976年 (昭和51年)

デミング賞受賞

1975年 (昭和50年)

電子機器部門に本格的に進出

「ぺんてる筆」発売

穂先に動物毛ではなく
ナイロンを使用した筆ペン

1971年 (昭和46年)

社名を
「ぺんてる株式会社」
とする

1968年 (昭和43年)

「ぺんてるメカニカ」発売

世界初の0.3mm極細芯を使用した
製図専門家用シャープペンシル

1967年 (昭和42年)

「ローリングマーカー」発売

世界初のカートリッジ式水性
樹脂チップボールペン

1962年 (昭和37年)

「ハイポリマー芯」発売

世界初の粘土芯に代わる合成樹脂を使用した芯

1960年 (昭和35年)

世界初のノック式シャープペンシル「ぺんてる鉛筆」発売

1946年 (昭和21年)

大日本文具株式会社を設立

「新しい日本を創るのに最も必要なものは教育である」との理念に基づき、くれよん・えのぐなどの学用品の製造販売



<http://www.pentel.co.jp/corporate/history.html>



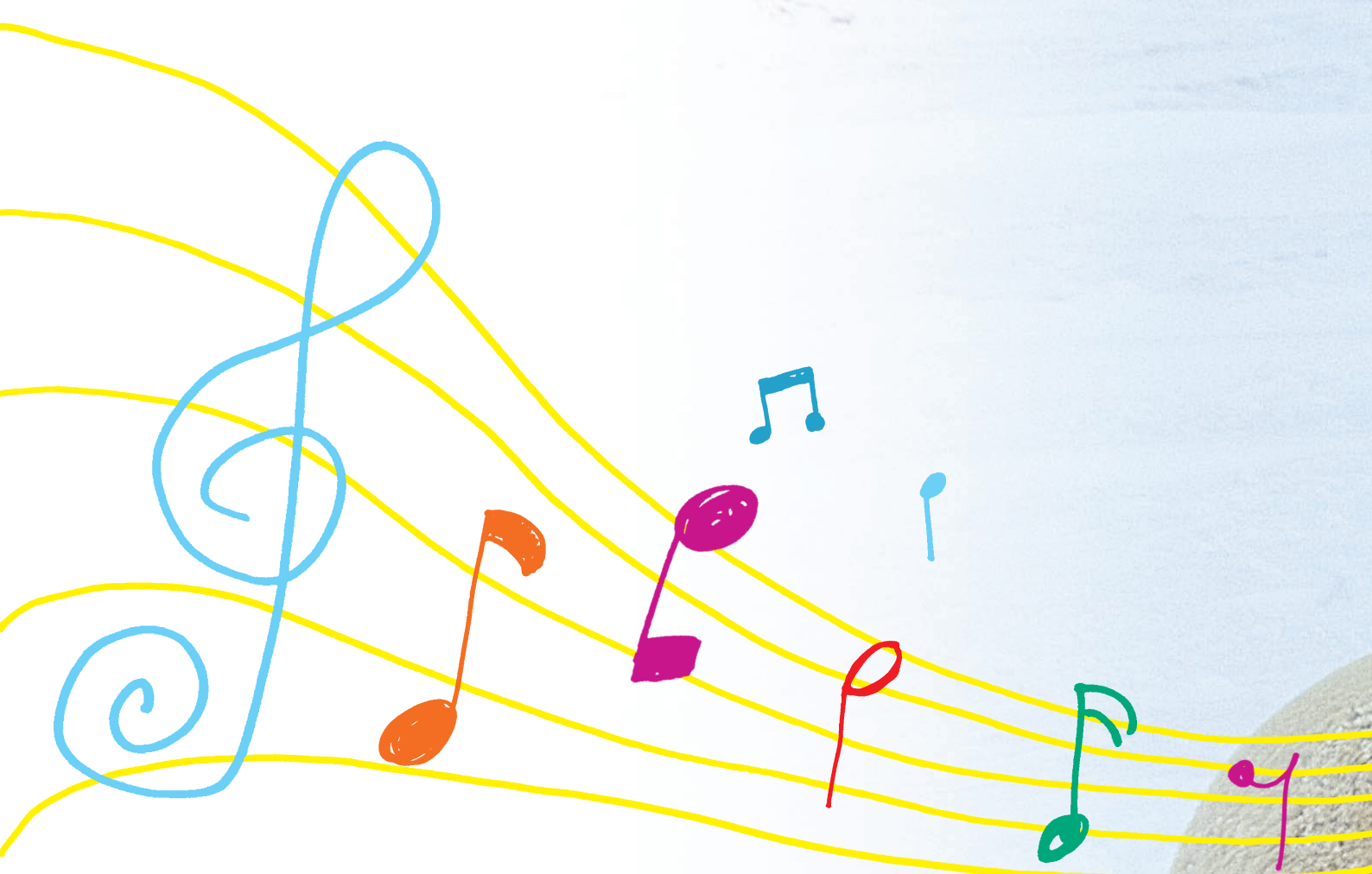
Photo © Lisa Vogt / MC Planning, Inc.

息を合わせる
In the moment, together

北極はどこまでも静けさに包まれている。ポーラーベアたちも声を出さずにコミュニケーションする。はっはっと互いに呼吸を交わして共に感じ合う瞬間。

撮影 リサ・ヴォート Lisa Vogt
写真集「White Gift - ホワイトギフト」(木耳社)より

地球温暖化で生息域を狭められているホッキョクグマたち。何を囁きあっているのでしょうか。へんてるは地球環境の保全に貢献するメーカーでありたいと願っています。



へんてる株式会社

〒103-8538

東京中央区日本橋小網町7-2

TEL 03-3667-3333 (代表)

<http://www.pentel.co.jp>

お問い合わせ窓口：コーポレートレポート編集委員会 事務局

TEL 03-5695-7271



印刷用紙は、適切に管理された森林で生産されたことを示す FSC 森林認証紙を使用。



印刷インクは、大気汚染原因となる VOC (揮発性有機化合物) の発生を減らすため、植物性的大豆油インクを使用。



へんてるは印刷サービスのグリーン購入に取り組んでいます